

の時に建築されたもので、石垣と共に往時の威容を
感ぶことができる。

鹿番後は、ここは國有となり、明治六年より佐伯小
学校が開設され、明治四十三年まで佐伯教育の歴史
的場所ともなつた。

しかし、明治三十四年毛利家の城山遷原（松下）と
共に、この三の丸も毛利家の私有地となつてゐる。

佐伯市はこの歴史ある三の丸を選んで、豪華壯麗な
市民文化会館を建設しようとしてゐる。それは期待
すべき文化の殿堂である。

長い間、城山のシンボルとして親しまれてきた三の丸

御殿は、佐伯文化会館敷地として使用されるため、住吉
浜に移転しました。これは船頭町区の方々の御尽力によ
るもので、見事に復元され、住吉御殿と命名されました。

昨年十一月六日、待望の文化会館の起工式かとり行な
われ、工事の植音が城山に連日こたましてゐます。本年
十月末の完成を目指して、施工は大分市佐藤組。

佐伯市制施行三十周年に当る昭和四十六年度は佐伯市
はとつては勿論、三の丸についてたまことに画期的な年
となつてゐます。

(註) 昭和十六年十一月六日、佐伯町、大倉町、八幡、西上浦合併して
佐伯市となる。
(以上)

二つのぬがい（余白を生かして）

○今日の、毎日の出来ごとの中から、五十年、百年の後世に向けて意義をも
つ歴史的な事柄を、明確に記述して記録にとどめよう。例えは市文化会館
の建設とか、重要港湾近海沿岸壁の建設とか
○反面古い昔ながらの風情がどん／＼とあされて行く。城下町の面影、明治の姿を
まだ残している街の建物、物産をもつてゐる川べりや小海や吉井戸や生垣や
樹木、いつまでも残したい。止むを得なければ写真にとつて——（用）

研究

蟹田・揚場・そして塩浜
—西南の役にまつがる聞き書—

会員 安部 力

増村隆也著「佐伯郷土史」後篇、西南戦争と佐伯地方
の項に、（同書二〇八頁所載、前後省略）

五月二十五日（明治十年）午後二時賊兵三百人日
三隊に分れ一隊は城北馬場志より、一隊は切通しを經て角石より
村より番五川を渡り、一隊は切通しを經て角石より
進んで佐伯城下に何の抵抗も受けず突入り、警察署
用務所、裁判所、学校に乱入して建物を破壊し、蟹
田、揚場の海岸に歩哨線と張り、城下の首の逃避に
備へ、警官、区吏の行方を懸命に捜し求めた

翌五月廿六日午前七時、昇庁より情報を受け左城
間艦隊が大入島守後に来て小艇を下し舟候を上陸せ
しめたが、賊兵は塩浜の堤防下から射撃され、水兵
二名は死亡し、数名の負傷者を出して、辛うじて帰艦
した。之を知つた淡間艦隊は砲門を開き、午前十時か
ら午後三時迄六十三発の砲撃を加へ賊軍を撃退した。

翌二十七日賊兵は一度佐伯城下を引揚げ、廿一日
其の數四百余名を以て再び城下に入り、建物を破壊
し初めた。情報により六月一日再び淡間艦隊は大入島
守後に来て、午前六時から午後四時迄佐伯城下を砲
撃し、午後五時守後を去つた。この砲撃で大砲の弾
は養賢寺前、中村方面に盛んに落ちた。

と記されている。（この時の不発弾や弾片を拾つて保管
してゐる家もあるとの事がある。）
以下は私が右引用文に関連のある蟹田、臼坪で収録し

